

シグマ研究委員会 FP積分テストサブWG 会合議事録

日 時 1985年4月5日(金) 13:30-18:00
場 所 原研本部第4K
出席者 渡部(川重), 佐々木(MAPI), 錦織(阪大), 川合, 飯島(NAIG)

配布資料

1. 前回(2月22日)会合議事録
2. Santa Fe 会議の論文及びポスター仕様の instruction
3. FPIT-85-1: 作業進捗状況(佐々木)
4. FPIT-85-2: B-spliene 関係による ϕ , ϕ^* の内外挿計算(佐々木)
5. FPIT-85-4: MINX コード出力定数の JFS-3 マスターライブラリーへの変換(佐々木)
6. FPIT-85-3: ϕ , ϕ^* 内挿値のプロット例(飯島)
7. FPIT-85-5: S.60 学会年会での報告原稿とOHP トランスペアレンシーのコピー(川合)
8. FPIT-85-6: Model uncertainty (D, Tn, fluction) による共分散計算例(飯島)
9. FPIT-85-7: FP 積分テストサブWG 作業スケジュール案(飯島)
10. FPIT-85-8: Santa Fe 会議ポスター準備(飯島)
11. FPIT-85-9: ^{149}Sm $\sigma(n, \gamma)$ の adjustment の方法(飯島)

議 事

1. 前回会合議事録を確認した。
2. JAIS 光成氏がシグマ委に加わりたいとの希望で, 当サブ・グループとしては, 菊池氏が辞められたこともあり, 光成氏が加わってくれば大変有難いとの意見であった。但し, 光成氏の希望は未だ確めていない。菊池氏の諸資料は, 判るように残しておくとのこと, 又, ファイル関係は中川氏に引継がれていることである。

3. 群定数作成，スペクトル内外挿，スペクトル共分散内外挿の作業進捗状況。

佐々木氏から，資料3，4，5に沿って説明があった。

MINX 出力をJFS-3型マスター・ファイルへ変換する，変換コードの作成を終了し，¹⁵⁵Eu でテストランを行ない，JFS-3-J2群定数と連結出来た。若干の問題点として，部分断面積総和が全断面積とわずかに（1%以下）一致しない。従って前者をもって全断面積としている。この不一致は，従来，JFS-3-J2でも有ったとのことである。問題は無いものと見て良い。

もう一つの点は，elastic の自群散乱と減速の和が，elastic の断面積と，略，全群にわたって1%程ずれる。100群のFe断面積では，このようなずれは生じていなかった。これについては，CASTHY，ASPEP等の計算時に用いた質量と，ファイル上の質量が若干ちがっていることがあり得るし，その故ではないかとの意見があった。実用上の問題は生じないであろうとの意見に達した。

ϕ の共分散値を，JFS-3 70群に変換する作業は，菊池氏が行なっている。今週ぎりぎりまで菊池氏が行なっているので，結果待ち。

ϕ ， ϕ の内，外挿は，STEK，EBR-II，CFRMFについて一応行なった。しかし，結果が未だ充分良くない（配布資料6）ので，佐々木，渡部氏が更に計討することになった。

4. 断面積共分散値作成の進捗状況

資料7により，川合氏から，主に¹⁰⁹Ag についての断面積共分散の計算の仮定と方式，および微分データの1点で計算値を規格化した時の，“評価断面積”の誤差計算例の説明があった。

又，飯島氏から，資料8により，model uncertaintyについて，Dのfluctuationによる散分散（相関係数）値の傾向の簡単な解釈の仕方，及び Γ_n のfluctuationによる共分散の，近似的なフィット式の説明があった。

5. Santa Fe 会議準備

錦織氏にSanta Fe 会議ポスターセッションをお願いするということで，ポスター及び論文の準備の打合せを行なった。主な点は，ポスター内容として，

- (i) JENDL-2 FP ファイルのgeneral aspects
- (ii) 重要核種順
- (iii) JENDL-1 FPの，STEK 積分テストのうち，弱吸収体に関するもの。特に⁹³Zrのテスト結果のフィードバックと，新ORNL データとの比較。
- (iv) スペクトル共分散の含め方についての，“method uncertainty”の扱いの

デモンストレーション (^{109}Ag について)

要は、JENDL-2 FP で急いで積分テストを進めるのも、時間的に難しいし、又、1, 2核種 行なっても、余り効果がないので、むしろ、上記の(i)-(iii)を主体として、JENDL-2 Fp の概要を提示するのが良いであろうとの考えである。項目 (iv) はTopical なもので、“method uncertainty” の考慮の仕方は、ORNL のメンバーが興味をもっている問題でもあり、うまくデモンストレーション出来れば、含めたらどうかという意見に達した。但し、余りうまくまとめられなければ、このトピックは止めることも再考しようということになった。

分担として、(i)-(iii)のポスター原紙 (A 4 サイズ) を川合、飯島氏が作成し、(iv)を錦織氏が行なう。(iv)を ^{109}Ag について、CFRMF データに基づいて調整するさいに、群は、CFRMF 指定の群で行なう。 ^{109}Ag $\sigma(n, \gamma)$ の ^{235}U $\sigma(n, f)$ の infinite dilution 値を、原研中川氏に作成依頼した。CFRMF スペクトル及びスペクトル共分散は、以前の配布資料から採る。 ^{109}Ag $\sigma(n, \gamma)$ の計算値 (或は評価値) 共分散は、川合、飯島が作成し、錦織氏に送付する。

論文原稿は、項目(iv)を除いて、川合、飯島が準備する。結果の最終打合せは、4月26日(金) 10:30から、東京において、サブ・グループ会合として行なう。そのさい、 ϕ 、 ϕ^* 内挿作業が進んでいけば、渡部、佐々木氏にも出席して頂く。

6. その他

積分テスト・プログラムのチェックのために、 ^{99}Tc のJFS-3-J2群定数の作成を、原研中川氏に依頼した。結果は、渡部氏に、中川氏から連絡する。

次回会合

5月下旬 (Santa Fe会議以後)、詳細未定。

サブ・サブWG 会合

4月25日(金) 10:30-17:00 原研本部

議 題 : Santa Fe 会議準備打合せ。

その他作業進行状況。